

「明日でいいや」が蝕む健康と財政

伊藤元重 学習院大学国際社会科学部教授



人間の行動は必ずしも合理的ではない。この点に着目したのが行動経済学だ。短期衝動的な行動と、長期的な合理性の衝突についての分析がある。

ダイエットの事例が一番分かりやすい。目の前においしいケーキがある。それを食べたという衝動に駆られる自分と、そうした食生活を続けていたらカロリーオーバーで健康によくないという合理的な思考をする自分がいる。

結局は、「明日からダイエットすればよい」と納得して今日はケーキを食べることにする。しかし、明日になったらまた同じことの繰り返しで、結局のところ食生活は改善できずに明日も明後日も同じことを繰り返すことになる。

この話を聞いていて日本の財政のことを思い出した人も多いはずだ。バブルが崩壊してから30年、政府の財政状況は悪化する一方である。これから少子高齢化がさらに進むことを考えれば、財政状況はさらに厳しいことになりそうだ。

それでも日本は一時的な財政刺激を繰り返してきた。不良債権問題と金融危機への対応、リーマン・ショックで大きく落ち込んだ経済を立て直すため、デフレからの脱却を実現するため、そして今度はコロナ禍によって壊れた経済を立て直すため。財政刺激策を導入すべきであるというそれぞれの時期の理由はもっともなものだが、いつの時期にもこうした理由が存在し、結果的に日本の財政状況は悪化する一方である。

そして、政治的なサイクルの

理論が指摘するように、選挙がある時期には財政支出の議論ばかりが前面に出る。目先の欲求に流されてダイエットができず、健康に悪い食事を繰り返す人に似た面がある。

しかもさらに悪いことに、ダイエットを怠ることで影響を受けるのは将来の「自分自身」であるが、放漫財政のツケを払わされるのは放漫財政を主導した「政権」ではないことが多いということだ。

誤解がないようにしたいが、現在の日本の現状を見たとき、財政刺激が必要ないと言っているのではない。低金利・低成長・低インフレの長期停滞から抜け出すため、そしてコロナ禍からの経済回復を加速化させるためには、財政政策の果たす役割は大きい。それも経済を確実に浮揚させる分野に財政支出を行うウイズ・スペンディングが求められる。

金利が非常に低いということも、積極的に財政支出を行う理由となっている。足元では必要な財政刺激策を取りながら、中長期的に財政健全化をどう実現していくのかが問われている。

政府の財政収支が赤字を続けるようでは、どこかで財政破綻を起こすことになる。少子高齢化で財源は先細りして、社会保障費の財政負担はさらに大きくなるだろう。財政赤字を垂れ流し続ける構造はできるだけ早く是正する必要がある。

財政再建は、日本社会の持続性の維持のために絶対に必要な条件だ。ただ、この財政収支の議論と膨れあがった公的債務の議論を混同してはいけない。膨れ上がった債務を減らすために歳出を抑えるという議論はおか

しい。歳出を10兆円程度削っても、1000兆円を超える債務への影響は微々たるものである。

経済を成長軌道に乗せるために足元での財政支出に取り組むとともに、長期的な財政健全化をどう実現していくのかという二面作戦が必要となる。

ダイエットの事例に戻るが、この問題についての助言の一つに、「今日の自分の行為を決めるときに明日の自分の置かれた立場を考えてみる」とよい、というものがある。衝動的に動きやすい行為に、長期的な合理性の視点を反映させようということだ。

「今日ぐらい甘いものを食べてもよいと考えれば、明日も同じような行動を繰り返すことになる」と自分を戒めるのだ。

財政再建の問題に戻ろう。財政健全化にも同じような視点が重要であると思う。アベノミクスに入る前の2012年（暦年）の日本の財政赤字は国内総生産（GDP）比で7.6%だったが、コロナ危機の直前の19年には3.4%にまで縮小している。

この財政赤字の縮小のスピードが十分だったかどうかは議論の余地があるかもしれないが、

コロナ以前のアベノミクスの7年間に着実に財政赤字が縮小したことの意義は大きい。プライマリーバランスの赤字を解消する目標を設定して、政府の財政運営に規律を課してきたことが大きかった。

コロナ禍によって、順調に進んでいたかに見えた基礎的財政収支（プライマリーバランス）黒字化の計画は大きく崩れてしまった。これまで積み上げてきた努力を最初から始めなくてはならない。

コロナ禍によって痛んだ経済を立て直すために大胆な財政支出を検討することも重要であるが、同時に中長期的に財政健全化へのプロセスをどう詰めていくのかということも忘れてはならない。

コロナ禍という大混乱の中なので無理もない面もあるが、財政再建の議論があまり行われていないように見えるのは残念なことだ。着実な財政健全化の計画を構築すること、足元で大規模な財政刺激策は、自動車におけるブレーキとアクセルの関係にも似ている。

闇雲に財政刺激のアクセルを踏むのではなく、財政健全化計画というブレーキを持ちながらアクセルを踏む必要がある。

*この記事・写真は日本経済新聞社の許諾を得て転載しています。無断転載、複製を禁じます。